

# 知事記者会見の概要

日 時：令和8年2月4日（水） 10:01～10:28

場 所：502会議室

出席記者：13名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 代表質問

- (1) 第51回衆議院議員総選挙について

### フリー質問

- (1) 雪害事故の防止について
- (2) 代表質問に関連して
- (3) 総務省の住民基本台帳人口移動報告（2025年結果）について

＜幹事社：河北・共同・TUY＞

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

昨日は「節分」でありました。今日から暦の上では春ということになります。

今日と明日は寒さが緩む予報となっておりますけども、その後また、再び寒気が入って、降雪が予想されております。

春は着実に近づいているんですけども、まだまだ油断できない状況だというふうに思っております。

県内では、1月下旬から各地でまとまった降雪が続き、特に最上や北村山地域で平年を大きく上回る積雪となっております。

これに伴い、雪下ろし中の転落事故や屋根からの落雪に巻き込まれるなど、雪害による人的被害が多くなっております。

昨日まで5名の方がお亡くなりになり、合計で55名の人的被害が発生しております。お亡くなりになられた方に哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた方に心からお見舞いを申し上げます。一日も早い回復を願っております。

県民の皆様には、除雪や雪下ろしの際の安全対策をしっかりとつけていただくとともに、屋根からの落雪にも注意をしていただいて、くれぐれも雪害事故に遭わないようにご留意いただきたいと思います。

それから、冬季オリンピックですけども、いよいよ今週の土曜日、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックが開幕いたします。

本県ゆかりの選手では、斯波 正樹選手が日本時間の8日日曜日にスノーボードパラレル大回転競技、森重 航選手が12日木曜日と15日日曜日にスピードスケート競技に出場する予定です。

また、森重選手は7日土曜日早朝に行われる開会式で旗手も務められます。

時差の関係で、競技の多くは、日本の深夜から早朝にかけて行われますが、みんなで応援をしていきましょう。お二人のご活躍を期待しているところであります。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

TUYの大内です。よろしくお願ひいたします。

衆院選についてお聞きします。現在発表されている最新の期日前投票の投票者数について、知事の見解を伺います。

加えて、選挙運営や期日前投票などについて、これまでに天候によるトラブルなどについて選挙管理委員会などからお聞きしていることがあれば教えてください。

また今回、受験の時期と重なることで若年層の投票への影響が懸念されている点について、知事の受け止めを聞かせてください。

知事

はい。それではお答えいたします。

県選挙管理委員会によりますと、このたびの衆議院議員選挙における 2 月 1 日までの 5 日間の期日前投票者数ですけども、前回は令和 6 年の 10 月でしたが、それに比べて約 20% 少ない 47,310 人とのことであります。

この要因について、県選挙管理委員会からは、最高裁判所裁判官国民審査の期日前投票が 2 月 1 日から始まるということや、大石田町と西川町で議員の補欠選挙があり、その期日前投票は 2 月 4 日開始ということなどが影響したのではないかと聞いております。

また、大雪の中、市町村の選挙管理委員会からは、ポスター掲示場の設営や管理、期日前投票所の除雪などにご苦労をいただいているところでありますが、天候による大きなトラブルは、現時点では聞いていないということであります。

そして、2 月 2 日に酒田市飛島で行われた期日前投票につきましては、投票箱が昨日、3 日、無事、酒田市役所に届けられたということであります。

選挙につきましては、いつも申し上げていることですが、有権者が政治に参加する重要な機会であります。民主主義の根幹をなすものでありますので、受験の時期と重なる有権者もいらっしゃると思いますが、期日前投票といったこともご活用いただいて、大切な一票を行使していただきたいというふうに思っております。

以上です。

☆フリー質問

記者

読売新聞の小西と申します。

冒頭の話にもありました雪害事故について、お伺いをいたします。

県内でも豪雪の事故が相次いでおりますけれども、今後の対策の方針といったところと、自衛隊の派遣の要請ですね。その点についてどのようにお考えか、お聞かせいただければと思います。

知事

はい。本当に毎日、積雪状況というのが気になっておりまして、県内の積雪状況を聞いているところでありますけれども、山形市以外は本当に平年より多くなっておりまして、多くのところで大変御苦労されているということであります。

今後もですね、しっかりと積雪状況というものを把握しながら、総合支庁と一緒にになってですね、市町村がどのような状況になっているかということも考えながら、しっかりと適切

に対応していきたいというふうに思っています。

自衛隊の派遣ということで、青森県がね、そういう状況になられて本当に大変だなと思っておりますけれども、本県内でも本当に大変な状況になっているところがあると思われましたので、防災（くらし安心）部のほうでですね、その積雪状況の多いところからいろいろと情報を取っておりまして、この記者会見の後、まさにその情報を聞くことになっておりますけれども、本当に災害的な、どうにもならないほど大変になったというような時にはもう自衛隊にお願いするしかないなというふうに思っております。

記者

おはようございます。山形新聞です。

衆院選に絡んでお聞きできればと思います。これまでも会見でいろいろ質問が出ていた知事御自身の応援スタンス、候補者に対する支援スタンスをお聞きできればと思います。

公示前になりますけれども、1区で言えば自民党と中道（改革連合）の候補者の陣営の事務所のほうに行かれたと思いますが、それも踏まえて改めて今の知事の支援スタンスはどういったものなのかをお聞きできればと思います。

知事

はい。そうですね、いつも悩んで悩んで慎重に考え、後援会の皆様のお考えもお聞きしながら判断をしておりますけれども、今回も大変悩ましかったところであります。

ただ、私の5期目の選挙がですね、今記者さんがおっしゃったそのお二人の方、両方から応援をしていただいたということがありましたので、お二人ともがんばっていただきたいというそういう気持ちで訪問をさせていただいたというところがありました。そのスタンスは変わっておりません。

記者

だとすれば、そういう5期目の知事選の時も踏まえて、応援していただいた方皆等しく応援するというようなスタンスという考え方になるんでしょうか。

知事

はい、1区は距離的にも近いので日曜日に行きましたけれども、2区、3区につきましては、なかなか距離的、時間的なこともございまして、今本当に当初予算編成の真っ最中、大詰めを迎えております。人事や組織機構の改正といったことも本当に最盛期であります、本当にそういうことを最優先しなきゃいけないという立場だと思っておりますので、今後どうするかというようなことまでは、まったく1区と等しくできるかというとなかなか難しいのではないかというふうに考えております。

いずれにしましても後援会の皆様と相談しながら対応していきたいというふうに思って

おります。

記者

河北新報の八木と申します。よろしくお願ひいたします。

先ほどの山形新聞さんの質問に関連するんですけれども、知事の応援スタンスということで、事務所開きに1区の候補者の方のところに行かれたかとは思うんですけれども、2区、3区は距離的にも難しいという今のお話があったかと思うのですが、今後まだ選挙期間があるわけですけれども、1区で何かまた応援の動きをされるというご予定というのはございますか。

知事

今週って、今日は水曜日ですよね。だから木、金しかないかなと思いますけれども、本当に毎日毎日予算協議、そして人事、組織機構についての、大詰めと言いますかね、しっかりとやらなければいけないというところでありますので、ちょっとこれ以上はなかなか難しいのではないかというふうに思っているところです。

記者

日経の松尾と申します。よろしくお願ひします。

昨日、総務省がですね、人口移動に関する統計を発表しまして、山形県は東北6県の中で転出超過数が前の年に比べてプラスになったということになりました。人口減少に絡む話ではあると思います。既にさまざまな対策を考えてこられましたが、例えば令和8年度からさらにこういう新しい視点を入れて取り組むとか、そのあたりのことはどういうふうに知事はお考えでしょうか。

知事

そうですね、本当に人口減少対策ということについてはですね、本県も、全国でありますけれども、本当に力を入れて取り組んできたというふうに思っています。

ですが、本当にこの10何年を考へても、東京一極集中というのが是正されないと言いますか、地方と中央政府と一緒にになってやってもなかなか前に進まないといったことであるというふうに思っております。

それでもやはりできる限りのことをやらなきやいけないということで、まったく新たな視点ということではないかもしれませんけれども、交流人口や関係人口といったところに力を入れて、いずれ地域を知っていただいて移住につなげていければというような視点でありますとか、あとはやはり外国人の皆様にも住みやすいというような多文化共生社会というものを構築して、隣人としてお迎えをし、もちろんルールは守ってもらうという視点も入れながらですね、そしてゆくゆくはやはり一緒に地域社会を構成していけるようになれ

ばというふうに考えております。まったく違うということではないんですけれども、やはりさらに力を入れていく必要があるかなと思っております。

あと、これだけ政府も地方もみんなで力を合わせてやってきてですね、何が最も足りないかなと、私などはずっと県政をやってきて思うのですけれども、例えば、フル規格新幹線で全国を結んでですね、それは国土強靭化になりますけれども、どこに住んでも便利なようにするといったことですとか、あと、賃金の高いほうに流れますので、やはり全国同一賃金、業界別であってもいいんですけれども、そういった抜本的なことに政府が取り組んでいただきたいなというふうに私は思っております。

記者

ありがとうございます。もう1個だけ。

隣の福島県の取組みなんですけれども、産学官の組織を去年の7月に立ち上げて、要するに人口減対策を真面目に考えていこうという取組みをしていて、1月下旬時点で700団体くらい参加しているということなんですね。同じような会議体はもうすでに山形県もお作りになっていると思いますけれども、このあたりの取組みをさらに活性化させていくとか、そのあたりについてはどういうふうにお考えでしょうか。

知事

そうですね、やはりさまざまな業界・団体の方々から御意見をお聞きすると言いますか、知恵を出し合うといったことは非常に大事なことであるというふうに思っていますので、本県もできる限りのことをしていきたい、知恵を結集するというようなことについてですね、そういうふうには考えております。

福島県さんもどのようなことをなさっているのか、全国の先進事例といったこともしっかりと注視をしながら、本県としてもできる限りの力を尽くしていきたいというふうに思っています。